三本木原開拓の歴史

新渡戸稲造博士のおじいさん・新渡戸傳、お父さん・新渡戸十次郎、お兄さん・新渡戸七郎は、１５０年くらい前に三本木原（今の十和田市を中心とするあたり）でだいきぼな開拓のしごとをしたんだ。たくさんの人と協力して稲生川や新しい町をつくって、それが今の十和田市のもとになったんだよ。

新渡戸 十次郎
（1820－1867）

町づくり

私は父・傳の工事をひきつぎ、さらに川ができたあとの三本木原に碁盤の目のような町をつくろうとしたんだ。また、町づくりのほかに風よけの林を植えたり焼き物づくりや馬市などの新しい産業をはじめたんだよ。とくに馬市はとても有名になって、たくさんの人があつまり、この町が今の十和田市の中心になったんだ。

開拓のその後

新渡戸 七郎
（1843－1889）

僕は14才のときから父の十次郎や傳おじいさんの手伝いをしてたんだ。そして三本木原開拓のけいけんを生かして国の土木技術者になって工事をたくさんやったんだ。

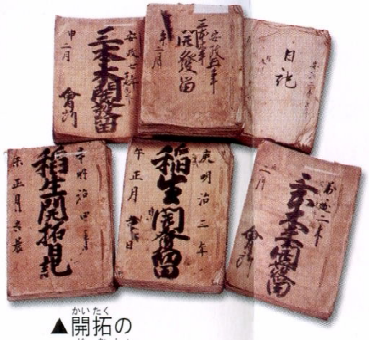
七郎が国の技術者になった後、開拓の仕事は地域の人びとによってつづけられ昭和12年（1937）には国の事業になったんだ。今では主な水路の長さを合わせると70kmにもなって太平洋までつづいているよ。そして稲生川は今も三本木原の人びとにゆたかなめぐみをあたえているんだ。

川づくり

新渡戸 傳
（1793－1871）

奥入瀬川など近くの川は、三本木原よりひくいところをながれている。そのために水を三本木原に引くことができず、田んぼをあまりつくれなかったんじゃ。３～４年に１度は米がほとんどとれない「凶作」の年があって、みな苦しんでいた。そこでわしは奥入瀬川の上流から三本木原まで11kmの川をつくって水を三本木原へ引いたんじゃ。とちゅうの２つのトンネルもすべて人の手でほったから、たいへんな工事で完成まで４年もかかったぞ。この川がみなも知っておる「稲生川」じゃよ。

▲十次郎が計画した碁盤の目状の町



▲開拓の事務所の日記

◀稲生川のトンネル出口

▲土地の高さ低さをはかる勾配器（こうばいき）

川ができてからは、お米がたくさんとれるようになったんだよ。川に水がながれてから６年後には前と比べて１０倍のお米がとれるようになったんだ。

▲トンネルをほるどうぐ ばんづる

▲方角をはかる方位器（ほういき）

ニトちゃんクイズ！

こたえ①

稲生川への通水に成功したのはなん年のなん月なん日でしょう？

①安政6年（1859）5月4日
②昭和6年（1931）5月4日
③平成6年（1994）5月4日

この日は太素祭がひらかれるよ